

令和7年度

町政執行方針・教育行政執行方針

令和7年3月10日に「第1回中頓別町議会定例会」で述べた町政執行方針と教育行政執行方針を要約、一部抜粋してお届けします。

全文は町ホームページをご覧ください。



中頓別町長

小林 生吉



町政執行方針

国の財政計画では、地方税収の大幅な伸びなどもあり必要財源が確保されていることになっていますが、人件費、物価、建設費高騰などに歳入が追い付かず、全体として厳しさが増しているというのが実感です。

本町も、堅実な財政運営に努めています。特別会計など不採算部門への繰出や補助が急増しているため、目的基金からの繰入れに頼り、新たな積み立て

ができていない状況が続いています。

今後、抜本的な見直しが必要であり、大胆な歳出改革に取り組みながら必要な施策の財源確保に努め、未来に向けたまちづくりを着実に進めていかなければなりません。私自身が先頭に立つてこれを推し進めていく覚悟です。

医療・介護・福祉の分野では、南宗谷福祉会から令和5年度に在宅サービスの事業所、令和6年度には養護及び特別養護老人ホームを町に移管し、地域医療と地域包括ケアの一体的な見直しに向けた取り組みを進めてきました。持続可能で最後まで住み続けられるための改革であるとともに歳出改革の要でもあり、早期の見直しに向けて令和7年度中に具体的な方針と工程を明確にしていきます。

一方で、中頓別の未来を切り開いていくため、人口減少対策の取り組みも力強く推し進めていかなければならないと考えてい

ます。人口減少対策に向けて策定された総合戦略を見直し、町が一丸となって取り組む体制を構築していきます。

現在、町内のあらゆる分野で人材確保が課題となっており、人口減少対策に合わせ、あらためて原点に立ち返り、若い世代や女性から「暮らしたい、働きたい」と選んでもらうにはどうしたらいいのか、真摯に向き合っていきます。

人生100年学びの拠点「中頓別学園」は、そうした意味からも、子ども・子育て支援と教育の充実として重点的に取り組んできた施策の集大成ともいえる事業になります。子どもたちにとつて新しい時代の学びに対応した学校であるとともに、大人たちにとつても地域コミュニティのさまざまな活動の拠点として多様な学びや遊びに出会うことができるつながりの場として機能します。ここをまちづくりの核として、子育て世代を中心に、すべての世代にとって「この町で

暮らしたい」と思ってもらえる施策を進めていきたいと思っています。

このほか、すべての町民のウェルビーイング向上をめざし、地域共生社会の実現、地域公共交通の確保、ゼロカーボン推進など重点プロジェクトとして掲げた取り組みを推進していきます。

以上、令和7年度の町政執行方針を述べさせて頂きました。大きな課題は冒頭でも申し上げたとおりですが、地方自治体を取り巻く困難な状況のなか、未来に向けた持続可能な地域づくり、自治のしくみづくりに取り組んでいかなければなりません。消滅可能性都市と言われる状況からの脱却、住んでいる町民の幸福度、満足度を高めていけるよう、より多くの町民のみなさんと議論を深めていきます。

町民の皆様の一層のご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

中頓別町教育長

大島 朗



教育行政執行方針

我が国は少子高齢化や国際情勢の不安定に伴う経済の悪化、自然災害などで先行きが不透明な中で、社会の変化を前向きに捉え、自らの幸せを追求する力、主体的に目標を設定し、責任ある行動をとる力や、対話と協働で課題を解決する力が求められています。

令和3年1月の中央教育審議会答申では、「令和の日本型学校教育」の構築に向けた改革の方向性として、校長を中心とした学校組織のマネジメント強化や、自主的・自立的な学校への支援が求められています。また、教育委員会の在り方についても、事務局の機能強化、首長部

局との連携促進、外部人材の活用などが重要視されています。社会の変化に迅速かつ的確に対応し、機動的で自律的な学校運営を支援する方策の検討が必要とされています。

教育委員会では、令和5年度に教育大綱を「未来思考」「共生」「好奇心」「共創」とし、その実現を目指して、学校教育・社会教育を前へ進めてきました。令和6年度は、人生100年の学びの拠点「中頓別学園」実現に向け、教育課程編成や質の高い教職員集団の形成に取り組んできました。授業改善では1人1台端末を活用し、個別最適な学びと多様な視点を取り入れる取組が進められています。生涯学習では「移動図書室」を実施し、図書利用を促進しました。また、教育支援センターや子ども支援ネットワーク会議を活用し、相談機能の強化や多様な学びの場・居場所づくりを推進しました。

今後も、誰一人取り残さない教育の実現のために、これまで積み上げてきた日本型の学校教育の良さを「不易」として受け継ぎつつ、教育の可能性を大きく広げる教育DXという「流行」を積極的に活用した、新しい時代の「中頓別の教育」を力

強く推進することが求められます。

教育行政執行にあたり、人生100年の学びの拠点「中頓別学園」づくりと、教育大綱を柱に、令和7年度の重点政策について申し上げます。

中頓別学園は学校と町民センターの機能を併せ持ち、教育環境の充実と地域の生涯学習を支える施設として計画されています。義務教育学校として幼児期からの一貫教育を推進し、個別最適な学びと協働的な学びを実現する環境を整えます。

教育大綱の基本理念の二つ「共生」では、子どもたちが地域への誇りや思いやりを育み、主体性や創造力を高める教育を推進します。デジタル学習を活用し、学習者主体の授業を展開し、町教委の指導訪問やフォローアップ体制を強化し、教師の指導力向上にも努めます。また、義務教育学校の教育課程では、幼児教育の積み上げや学習者主体の教育活動を推進すると共に、ICT教育や環境教育を積極的実践し、地域との協働による学校づくりを進めます。さらに、いじめや不登校対策として教育支援センターの機能強化やフリースクールの継続運営を行います。

「好奇心」では、12年間の一貫した教育を通じて、知識や判断力とともに、学びに向かう力を育成します。ICTを活用し、児童生徒が主体的に課題を解決する探究活動を充実させます。

また、キャリア教育として「100年キャリア・パスポート」を導入し、自己評価を通じて成長の可視化を図ります。図書館を地域交流の拠点とし、学校図書館と連携を強化すると共に、給食センターを併設し、食育の充実を図るとともに、ランチルームを町民との交流の場として活用します。

「共創」では、学校と地域が連携・協働し、持続可能なスクール・コミュニティを形成します。新たに「中頓別学園理事会」を設置し、学校運営や施設活用について協議します。中学校の部活動は、地域展開を視野に入れ、持続可能な支援体制を整備します。社会教育では、世代を超えた交流を促進するスマホ教室やパソコン教室を継続し、人材確保や施策の見直しを進めます。教育委員会の体制も強化し、生涯学習の充実を図ります。

引き続き、町民の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。